

学校だより 潮鳴り No.6

令和4年10月20日

暦の上では「霜降」を迎え、風も少し冷たさを感じるようになりました。保護者の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃より、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、大洋中学校では、待ちに待った「修学旅行」が実施されます。コロナの影響により、一度延期をしましたが、10月29日に出発する予定です。

また、11月11日（金）には、黎明祭（文化祭・合唱祭）が3年ぶりの実施予定です。保護者の方（各家庭1名）も参観可能ですので是非御参観ください。

今月も職員と生徒に話している内容の一部を掲載させていただきます。

*学校の詳しい様子については、大洋中学校ホームページをご覧ください。

1 職員（職員会議）

(1) 自ら学ぶ生徒の育成

○銚田市授業スタイル2の再確認

＜主体的・対話的で深い学びの実現＞

主体的な学び

対話的な学び

深い学び

つかむ⇒見通す ⇒考える⇒交流する ⇒まとめる⇒振り返る⇒生かす
予想する（個人）（広げ深める）

(2) 思いやりのある生徒の育成

○学習指導における持続可能な社会づくりの視点（例）

- | | |
|----------------|-------------------|
| ① 批判的に考える力 | ② 未来像を予測して計画を立てる力 |
| ③ 多面的・総合的に考える力 | ④ コミュニケーションを行う力 |
| ⑤ 他者と協力する態度 | ⑥ つながりを尊重する態度 |
| ⑦ 進んで参加する態度 | |

(3) たくましい生徒の育成

○生涯スポーツ（文科省）

スポーツは「世界共通の人類の文化」であり、国民の成熟した文化としてスポーツを一層根付かせ豊かな未来を創ることが、スポーツ振興に携わる者の最大の使命である。スポーツの「楽しさ」「喜び」こそがスポーツの価値の中核であり、全ての人々が自発的にスポーツに取り組み自己実現を図り、スポーツの力で輝くことにより、前向きで活力ある社会と、絆の強い世界を創る。

(4) 職員の資質向上

○接遇の大切さ（言葉、態度、身だしなみ、他）

○コンプライアンスの意識向上

○「人格の完成を目指す」

(5) 働き方改革

○日課表の変更から

9月から始まった日課表の変更により、登校時間が10分早くなり、生徒と職員の帰宅時間も早まりました。自分の時間を増やし、自分のために生かせる時間を有効に使いましょう。

(6) 座右の銘 「劣等感」

「あなたが劣っているから劣等感があるのではない。どんなに優秀に見える人にも劣等感はある。目標がある限り、劣等感があるのは当然のことだ」

「劣等感を言い訳にして人生から逃げ出す弱虫は多い。しかし、劣等感をバネに偉業を成し遂げた者も数知れない」 心理学者 アルフレッド・アドラー



2 生徒（全校朝会）

脳や遺伝子の作用を研究した人で「筑波大学名誉教授の村上和雄」という方の講演を聞いたことがあります。その方の話によると、「人間の脳にはスイッチがある。オンとオフがあり、切り替えることができる」というのです。ですから、運動する時や学習する時、自分で自分の脳にあるスイッチを入れることができるのです。そのスイッチの入れ方は、人それぞれ異なります。試合の前であれば、声を掛け合う、腹に力を入れる、頬をたたくなどの話をしました。では、学習やテストの時どうするか。例えば、深く深呼吸をする。目を閉じて気持ちを落ち着けるとか、いろいろなことが考えられます。是非、みなさん自身のスイッチのオンとオフを見つけてください。